

国際UFOデー 第72回記念式典開催



2019年6月24日、その比類なき偉業や特徴から伝承神・文化神・英雄神・人文神・雷神などと讃え称されたオキクルミカムイがカムイカラシタ(UFO)に搭乗、アイヌモシリに降臨して民を真の人間へと教化善導した。

そのオキクルミカムイの降臨の地であり、かつて居城が築かれていた聖地ハヨピラ(沙流郡平取町)において国際UFOデー第72回記念式典が、エアロスペース・ニュースのメンバーにより執り行われた。

当日、札幌出発時には晴れ間が出ていたが、途中から天候が崩れ、式典会場がある平取市街一帯は暗雲が垂れ込めているという気象条件であった。

10:45 ハヨピラの麓に整備された駐車場に集合したメンバー13名が、式典に必要な品々を携えてハヨピラのゲートをくぐり、オキクルミカムイ像が建つ大階段左側の斜面に到着。オキクルミカムイ像に献花、献酒を行った。

その像の横には炉が設けられ、例年だと二風谷を中心としたアイヌの人たちがカムイノミの準備をしている筈だが、何故か今年は一人も見当たらず、時間になっても遂に誰一人として現れることはなかった。

彼らが時間にルーズであることは承知していたが、自らの意志で決定していたカムイに感謝を捧げる年に一度の祭典を放棄するとは、一体全体どうしたのであろうか。

このような体たらく故にアイヌはヤマトの軍門に降り、観光化して舞踊集団と成り下がり、ヤマトに翻弄されて国際イベントなどに利用されるのである。

絶対的存在である筈のオキクルミカムイへのカムイノミは、彼らにとっては形式上の儀式であり、単なるイベントであるに違いない。

11:00 大階段上部の一層ステージに移動し、二手に分かれてオベリスク周辺の草刈り、清掃と祭壇の設営を行う。

オベリスクの足元に設けられた花瓶に花束を生け、その前に設営された祭壇の両サイドにはバラをメインとした花束が飾られた。

その祭壇の中央には、前号に続き「信州と九州の古代史が示唆する魏石八面大王の実像No.2」と米国ハーバード・スミソニアン天体物理学センター長らがUF0の可能性について言及した「オウムアムア」を特集した機関誌、さらに世界広報の一貫として作成した英語版のUF0サイティング・レポート（目撃報告書）及びノー・ニュークスのプロテストで配布する新たなフライヤーが並べられ、オキクルミカムイへ奉納した。

12:00 平取町の正午のサイレンを合図に布川賢治の司会で国際円盤デーの開催が宣言されて記念式典がスタートした。

冒頭、まずオキクルミプランの総仕上げである“プロジェクト’66プラン”の太陽のピラミッド建設工事に参加した隊員の『われらの誓い』が朗読された。

この朗読により新時代建設を使命とするエアロスペース・ニュースのメンバーへと『われらの誓い』が引き継がれたのである。

その後、宇宙からの恩恵に心からの感謝を込めて参列者全員が献酒を行った。

暗雲が垂れ込めていた天候ではあったが、式典開始少し前より東方面の空から青空が覗き、その青空が瞬く間にハヨピラ上空一帯へと広がり好天となった。

今さらながらに常に宇宙から見守られ、援助の手が差し伸べられているということを強く実感したのであった。

その後、参列者全員が整列して記念撮影を行い、また各自が思い思いのアングルで祭壇やオベリスク、前方の情景などをカメラに収めたのである。

12:30 町内の飲食店に依頼したお弁当が届

き、大階段一層ステージの“フライング・ソーサー台座”横での昼食兼ミーティングタイムとなった。

ミーティングでは世界広報の一環として作成されたサイティング・レポート（英語版）の活用方法についての討議がもたれた。

意見を集約すると「サイティング・レポートの存在とその記入例などをインターネットで発信する」「航空関係者に送付する」などであった。

13:00 ほぼハヨピラ正面の仰角20度前後の空に、13:00少し前より出現していた周りの情景とは異なる雲が気になりその雲を撮影した。

同一方向に出現していた雲が横長であるのに対して、何故かその雲は縦型の長方形状でその中に複数の縦縞模様が見え、横長の雲の手前に出現しているようであった。

不思議な雲の出現に、それに気付いたメンバーはしばしの間その雲の話題で盛り上がった。

後日、その雲を撮影した写真をチェックしたところ、その雲の中にUFOが写っており、「地が動けば天も動く」という以前から聞いていたその言葉が脳裏をよぎった。

14:30 なんとなく雲行きも怪しくなってきたので予定より少し早く式典を終了してハヨピラの地を後に、全員帰札の途についた。

太陽神オキクルミカムイの降臨により誕生した真の人間の王国である太陽王国も、アイヌ民族の人間性の喪失により崩壊、結果として彼らがアニミズムや多神教へと傾倒したことで、オキクルミカムイによってもたらされた計り知れない恩恵が忘れ去られてしまったのである。

オキクルミカムイの幾多の偉業を明らかにされた現代の太陽神松村総主幹は、UF0問題とハヨピラ建設を通じて暗黒から開放されたこの



地上に太陽王国を復活され、総主幹の元に馳せ参じたCBAインターナショナル（CBA' I）のメンバーを太陽王国の民とされ、さらに挺身隊として人類の救出劇に参加し、新時代建設を担うインターナショナル・スカイ・スカウト（ISS）を誕生せしめたのである。

1970年、“オキクルミカムイ1200年祭”がこのハヨピラの地で挙行され、CBA' Iが「遠く海外に太陽王国の旗印をたなびかせんことを誓う」との“チプサンの誓い”を朗読、世界広報遂行の宣言が宇宙側によって承認されたのである。

これが“天と地の契約”であり、CBA' Iの世界広報の第一歩であったが、同年12月に宇宙側より自ら行動しようとしないうCBA' Iはアウトの宣告を受けたのである。

しかし、約十年後CBA' I本来の意志を引き継

ぎ“天と地の契約”の履行である世界広報の貫徹を絶対的使命としたエアロスペース・ニュースが立花有治氏によって設立され、世界を照らす“正義の光”が灯されたのである。

エアロスペース・ニュースは、現在の太陽王国であり、太陽家族であり、科学的研究により地球最先端の学問であるUFOLGY（宇宙科学体系）を学習、会得、広報できる世界で唯一の人間の場である。

そのメンバーには、常に自身が先陣を切り、新時代建設者（ニューエイジワーカー）としての強い自覚と決意、実行と献身を兼ね備え、行動に責任をもって実践、前進することが使命として求められているのである。

その使命を今まで以上に強く認識させられた国際円盤デー第72回記念式典であった。



われらの誓い

今まさに地球黎明の時、志しを同じうして集える我らハヨピラ建設隊、松村最高顧問のもとに至誠をつくし、ここに至上比類なき「太陽のピラミッド」を築かんとす。

地球全人類30億同胞に代わりて、悠遠なるブラザーの恩恵に報いるため、1石1木、持ってこの星に太陽円盤の光輝を伝えん！その日、全地球の義しき者と、すべての幼き者のため、大いなる宇宙の栄光をたれさせ給え！

今日ここにある者みな誓いも新たに、一丸となって宇宙に応えん！新しき太陽と、新しい星と、新しき兄弟のために

CBAインターナショナル ハヨピラ建設隊一同